

刊 行 に あ た っ て



世界的にも珍しい溶岩円頂丘をもつ樽前山とその山麓に広がる豊かな森林、さらに全国屈指の渡り鳥の中継地としてラムサール条約に登録されているウトナイ湖を有するなど自然環境に恵まれた本市は、製紙業を始めとする工業都市として発展してきた歴史を持ちます。

昭和 48（1973）年には、公害のない健康で安全な都市環境の創造を目指す「人間環境都市」を宣言し、当時国内で問題となっていた大気汚染や水質汚濁などの公害対策に力を注いでまいりました。

平成 11（1999）年には、地球規模の環境問題に対応するため、「苫小牧市環境基本条例」を制定するとともに、平成 15（2003）年には、快適な環境の保全及び創造を目指す「苫小牧市環境基本計画」を策定いたしました。

また、脱炭素社会実現に向け、国内でも温室効果ガスの排出削減に向けた取組が加速化する中、令和 3（2021）年 8 月には、2050 年までの二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言し、世界共通の喫緊の課題である気候変動問題に、全市を挙げて取り組む決意をいたしました。

令和 5 年（2023）3 月には、「苫小牧市環境基本計画」を全面的に見直し、「ゼロカーボン推進計画」としての内容も加え、市、事業者、市民が推進主体となり、相互に連携しながら推進しているところでございます。

本書は、令和 4（2022）年度に実施した本市の環境保全及び創造に関する施策等をまとめたものであり、ご覧になった皆さんが環境問題への理解をさらに深め、自らが行動するきっかけになれば幸いです。

令和 6（2024）年 3 月

苫小牧市長 岩倉博文

人間環境都市

「人間環境都市」は、人間主体のまちであり、豊かな自然と調和した文化の薫り高く潤いのある快適な生活環境の中で、共に生き生きと心豊かに暮らしながら、全ての市民が持てる能力で社会に貢献し、未来に向かって挑戦し続けるまちです。